

(11) クリ

〔果樹類>落葉果樹>くり〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害共通】	[耕種的防除]	・空のイガ、発病した毬果、落葉、発病枝、せん定枝は、感染源となるため、可能な限りすみやかに回収して、園外で焼却または地中に埋設する。
胴 枯 病	病患部削り取り直後	・病斑を見つけ次第、病患部を大きめに完全に削り取り、傷あとおよびその周辺にトップジンMペーストを十分塗布する。
	[耕種的防除]	・枝幹害虫の被害跡や凍害による枯死部から病原菌の繁殖が始まるので、害虫防除や凍害対策を行う。
実 炭 疽 病	果実肥大期	・薬剤による防除適期は、毬果肥大期～成熟期(7月中旬～8月下旬)である。 ・10日間隔で2～3回、イガに薬剤が十分かかるように散布する。
	[耕種的防除]	・極早生品種および晩生品種は発生が少ないので、品種構成を考慮する。
切り口及び傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
【害虫共通】	[耕種的防除]	・空のイガ・食害された毬果・落葉は、生育や越冬の場所となるため、可能な限りすみやかに回収して、園外で焼却または地中に埋設する。
ク ス サ ン	[耕種的防除]	・休眠期に卵塊を集めて焼却する。 ・生育期は早期発見に努め、若齢幼虫期に捕殺する。
カミキリムシ類	6月下旬～8月上旬	・薬剤は樹幹部に十分量散布する。
	[耕種的防除]	・成虫は見つけ次第捕殺する。幼虫は食入痕に針金を差し込み、刺殺する。
コウモリガ	4～6月	・登録薬剤を地際部から約1.5m～2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布または散布する。
クリタマバチ	発芽直前	・越冬幼虫を対象に、登録薬剤を休眠期に樹冠全体を散布する。
	成虫活動期(7月上旬～中旬)	・成虫が虫こぶから脱出して野外を活動する時期以外は薬剤の効果が低い。 ・羽化脱出期(特に羽化初期)を見計らって薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・新梢の伸びが少ないとクリタマバチが寄生しやすくなるので、やや強めのせん定や適切な施肥によって樹勢を強く維持する。 ・品種により本虫に対する抵抗性が異なるので、抵抗性品種を選んで栽培する。
アブラムシ類	生育期	・主なアブラムシ種として、クリイガアブラムシ、クリオオアブラムシがある。 ・クリオオアブラムシは、ふ化直後に薬剤散布する。
	[耕種的防除]	・クリオオアブラムシは、樹皮に付着している越冬卵をすりつぶす。

病害虫名	防除時期	摘 要
クリイガ アブラムシ	6 月	・成虫の移動期に薬剤を散布する。 [耕種的防除] ・主幹や主枝などに両面テープを巻いて、成虫の移動を阻止する。
モモノゴマ ダラノメイガ	8 月上旬 ～9月中旬	・早生種は8月上旬～中旬、中生種は8月中旬～下旬、晩生種は8月下旬～9月上旬に重点を置き薬剤を散布する。
ネスジキノ カワガ	6 月下旬 ～7月上旬	・第2世代成虫による被害がもっとも多いので、第2世代成虫の産卵最盛期(6月下旬～7月上旬)に薬剤を穂果に行き渡るように散布する。
クリシギ ゾウムシ	8月下旬～ 9月中旬	・成虫が羽化する時期に薬剤を散布する。
クリミガ	9 月	・老熟幼虫で越冬し、8～9月の蛹期を経て、9月から成虫が羽化し産卵するため、9月下旬以降収穫の晩生品種で被害が多い。

クリ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）		
									実炭疽病	切り口及び傷口のゆ合促進	胴枯病
くり	ジマンダ イセン水和剤	マンセブ 水和剤	"UN(I*)		収穫7日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	600倍		
くり	トップジンMペー-スト	チオファネートメチルペー-スト剤	1		【A】	3回以内		塗布			原液
					【B】						原液
くり	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫3日前まで	4回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1000倍		
くり	ベルコートフロアブル	イミノクタンアルベシル酸塩水和剤	M7		収穫14日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1000倍		
くり	ペント水和剤	ペノミル水和剤	1		【C】	4回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	2000～3000倍		

使用時期【A】：病患部削り取り直後

使用時期【B】：剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

使用時期【C】：裂果前（但し、収穫14日前まで）

クリ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									アブラムシ類	カミキリムシ類	クスサン	クリガアブラムシ	クリギゾウムシ	クリタマバチ	クリミカ	コウモリガ	ネズミキリガ	モモコマダラノメイガ	
くり	アグロリン水和剤	シペルメトリン水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布					1500～3000倍	1000倍					
くり	アデイオン乳剤	ペルメトリン乳剤	3A	劇	【A】	5回以内	200～700g/10a	散布										1000～2000倍	
					収穫14日前まで													2000倍	
くり	アドマイヤー水和剤	ミダクワドリッド水和剤	4A	劇	収穫7日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	200～700g/10a	散布	1000倍										
くり	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	収穫14日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布				1000倍						1000倍	
くり	ガットサイドS	MEP乳剤	1B	劇	【B】	1回	-	【Z】										1(原液)～1.5倍	
							100～1000mL/樹	【Y】									2倍		
くり	スミチオン水和剤40	MEP水和剤	1B	劇	【C】	4回以内	200～700g/10a	散布					1000倍					1000倍	
くり	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布											10000倍
くり	トクチオン乳剤	プロチオホス乳剤	1B	劇	【D】	5回以内	200～700g/10a	散布										1000倍	1000倍
くり	トラサイドA乳剤	マラソン・MEP乳剤	1B	劇	【C】	発芽直前	1回	200～700g/10a	散布					200倍					
						1回	0.5～2.0g/樹	樹幹部に十分散布	100～200倍										
くり	パーマチオン水和剤	フェンハレート・MEP水和剤	1B,3A	劇	【C】	4回以内	200～700g/10a	散布				1000倍	1000倍						

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）									
									アブラムシ類	カミキリムシ類	クスサ	クリガアブラムシ	クリギゾウムシ	クリタマバチ	クリミカ	コウモリカ	ネジキカガ	モモコマダラメイガ
くり	パダンSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	裂果前	3回以内	200～700 μ g/10a	散布									1500倍	1500倍
くり	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	2～4 μ g/10a	【X】			40倍							40倍
							200～700 μ g/10a	散布			4000倍							
くり	マブリック水和剤20	フルバリネット水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	2回以内	2～4 μ g/10a	【X】				40倍						
							200～700 μ g/10a	散布			2000倍	2000倍	2000倍					
くり	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリト水溶剤	4A	劇	収穫7日前まで	3回以内	200～700 μ g/10a	散布	4000倍				2000～4000倍		2000～4000倍			2000倍

使用時期：【A】羽化脱出期但し収穫14日前まで、【B】裂果前まで但し収穫90日前まで、

【C】裂果前但し収穫14日前まで、【D】裂果前まで(但し収穫7日前まで)

使用方法：【Z】樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布、

【Y】樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に散布

【X】無人航空機による散布